

1. キャリアプランを考え医師として活躍できるようなサポート体制

○学部生・研修医のキャリア教育

- ・男女問わずさまざまなライフイベントに直面した場合でもキャリアを継続するという自覚をもって医師としての人生をスタートすることが大切である。
- ・持てる力を発揮して社会に貢献するためにはどうすべきかについて、主体的に考える機会を学部や初期研修の間に設定し必ず参加してもらう。
 <例>医師のキャリアを考えるワークショップ：いくつかの事例に基づいてグループで討論・発表し、考える機会をもつ。

○キャリアについての相談窓口・コンサルティング

- ・年齢や性別にかかわらず、ワークライフバランスやキャリアプランについて悩んだときに気軽に相談できるところがあることがのぞましい。
- ・妊娠、育児、介護、加齢、体力、持病、家族の問題、過重労働、人間関係などで、人知れず悩んでしまい、責任を果たせないと思いついで退職してしまう場合が少なくない。一人で抱えずにすむよう、第三者がアドバイス、調整の手伝いをすることでキャリア継続支援ができないか。

<相談例>仕事を続けてきて40歳近くなってきたが本格的に不妊治療を受けたいと思っている。今のペースでは治療にも通えないし当直も多く夫と過ごす機会も少ない。年齢のこともあり退職して治療に専念すべきか迷っている。

- ・よくある質問（FAQ）とその対応例をまとめてホームページやスマートフォンなどで閲覧できるようにするとよい。
- ・職員をおいて個別対応が必要なケースには公的、中立的な立場で相談がしやすい環境で有効な対応策を提案できるように組織作りをする。

2. 家庭責任の軽減を工夫し仕事しやすい環境をまず女性医師から

「どのようにすれば安心して仕事ができるか」

- ・保育が必要な子ども、介護が必要な家族を自分でなくとも安心して任せられる
- ・年度途中、非常勤や院生などの勤務条件に関わらず、必要な時期に復帰できる
- ・家族の急な発熱、仕事の予定の急な変更等の場合では通常モードでは対応できなくなる。休業や遅刻、欠席せずとも、緊急性が低ければ目途がつくまで自分でなくとも代わりに対応できるシステムがあること

- ・家計の許容範囲のコストで家事代行を**自分でなくとも**安心して任せられる
- ・**家のことは自分でしなくては、という意識をまず本人が変える必要がある。**
夫や家族、外部サポーターとシェアしながら医師としての業務に力を発揮する

「医師だけでなく女性全体の活躍へ向けた対策への可能性」

- ・ 家事育児サービスを使ってでも仕事を続けるということは比較的経済的余裕のあるケースが多い医師の場合に他の職種よりハードルが低いであろう。
- ・ 家庭責任のアウトソーシングがより使いやすく、より多くの人が利用できる質とコストになっていくことで、当初は限られた層対象のサービスが将来的には多くの家庭で利用しやすくなっていく可能性がある。子育てと仕事がより無理なく両立しやすくなる環境によって、少子化対策にも寄与することになるであろう。

(対応策)

- ・ 保育施設の整備拡充はもちろんであるが、地域で対応できない場合に、複数の医療機関や大学で共同経営する保育施設を設置し、年度途中やさまざまな働き方をする場合でも利用できるようにする。
- ・ 子育て支援員などのサポーターによる支援
- ・ 保育の供給の質と量の充実が求められる。
- ・ 現在の保育サービスや人員だけではなく、厚労省で提案されている子育て支援員に活躍を期待したいが、自己負担が増えても利用したいというニーズもあると思われるので、民間の力をもっと活用していくことも検討が必要である。

(方法)

- ・ サポートの必要な家庭に対応する支援員を複数受け持ち制にして担当してもらいあらかじめ面談して顔なじみとして安心して預けられるようにしておく。
- ・ 研修を定期的に実施し質の高いサポートを提供できるようにする。
- ・ 具体的な利用例を以下に示す。
 - ＜例1＞手術や診療が予定より長引いて保育園のお迎えに間に合わない
緊急対応コース：支援員が代わりに迎えにいき、帰宅まで自宅あるいは支援員の自宅で保育する。
医師が診療途中で退出する、手術は担当しない、という事態にならずにすむ。
 - ＜例2＞こどもの塾の送り迎えや勉強をみて受験対策をしたい
教育補助コース：支援員が学童保育や習い事、塾の送迎や学習管理の手伝い、こどもの話し相手やくつろげる環境で見守り、様子を親に報告する。
こどもの教育のために仕事をペースダウンせずにすむ。
 - ＜例3＞朝の家事や用事が多くて大変、出勤前に疲れてしまう
おはようコース：朝に支援員が家庭にきて、朝の用事を代行

保育園送り、朝食やお弁当準備（持参）、片づけ、洗濯物干し、家の掃除、買い物
こどもが急に熱が出たときは病児保育施設へ連れて行く

ゆとりをもって出勤し診療を開始したり、ミーティングにも出席できる。

<例4>夕方帰りに慌ただしく保育園に駆け込み、夕食、家事をするのが大変

おかえりなさいコース：夕方に支援員が家庭にきて、夕の用事を代行

夕食準備（持参）、洗濯物取り込みや整理、保育園お迎え、帰宅するまで家族の
世話を代行

帰りの時間を気にして焦る、こどもをせかして夕方の用事に奮闘せずにゆとりを
もって仕事をする事ができる

<例5>学会に行きたいが、こどもがいるので出席できないため専門医単位が
足りない

出張同行コース：こどもや家族と一緒に出掛け、学会の託児所があればそれを利用
するが、なければサポーターがその間保育する。小学生以上の場合には現地の
博物館や水族館などを見学、観光する企画を作り、サポーターが付き添って親が
その間安心して学会に参加できるようにする。

学会場に子連れで来て会場で騒いだり、小学生が手持無沙汰にしているは親子双
方が安心して参加できないであろう。

3. 医療を安心して受けられる、安心して提供できる体制

- ・人間は平日昼間だけ病気になるわけではなく、夜間休日にも医療ニーズは高い。
- ・手薄な人数と検査体制のなか、訴訟リスクやクレームに不安をもちながら
当直という名の夜勤を多くの医師が担っているのが現状である。
- ・夜間休日の医療提供は誰かが担わなければならないが、女性だから、子持ちだからと
いってその任を免れることは果たしてよいのだろうか。
- ・平日昼間と夜間休日の提供体制の格差を減らし、心細い一人だけの当直でなく夜間も
複数で対応できるようにする、前後に適切な休憩をとれるようにする、過重労働の防
止、夜間保育の充実などクリアすべき課題は多い。

(方法)

- ・基幹病院、救急性の高い診療科での交代制勤務の実施、当直明け手術の禁止
- ・複数主治医制による責任の分担
- ・医療秘書など医療補助職種による業務軽減の拡充
- ・疾患の説明や患者教育など繰り返しが多い説明について動画を利用し、質問のみに
対応することで診療時間を効率化
- ・安心して夜間保育ができる施設があることで夜勤や当直、オンコールに対応できる
ようにする（毎日でなく週の決まった曜日から設置するのも工夫である）
- ・夜間働く場合の健康管理、適切な報酬制度

- ・ 設立母体を超えた医療機関・研究機関同士の人事交流：特定の分野を研修したい場合、勤務条件が合う施設に一時的に勤務したい場合、配偶者の転勤や親の介護などで一時的に別の地域で勤務したい場合などに、希望する条件の職場が見つかりやすいよう、地域や全国の求人・求職情報を提供し、双方のニーズに応えられるようにする。（その場合、一定の条件を満たせばまた元の職場に復帰できる、社会保険・年金などで不利にならないようにできる、等がのぞましい。）

4. リーダーを目指す女性医師の育成

- ・ ロールモデルの提供
懇談会の構成員として高橋先生や別役先生にぜひキャリア形成についてご教示いただき、若手への心強いメッセージをHPなどに掲載する。
- ・ 管理職や候補となる女性医師どうしの情報交換会・交流会の開催、管理職研修
管理職ならではの悩み（会議が多い、部下への接し方など）について情報交換やスキルアップができるようにする。
- ・ 医師以外の他職種、他分野における女性管理職育成、マネジメントの方法について情報を集め、役立てる。

ロールモデルの提示
管理職研修・交流会
他業種・職種との情報交換

仕事の責任

勤務体制の工夫
業務分担と効率化

保育・介護の充実
多様なニーズに対応する
サービスの育成・普及
利用者の意識改革

指導的立場
リーダーの育成

家庭の責任

就業継続
キャリア形成

モチベーション

学会・研究会等での託児
e-learningの活用
専門医・資格要件の緩和

参加型キャリア教育
キャリアコンサルティング
ITを活用した情報提供

